

平成 26 年 9 月 30 日

## 太平洋クロマグロの加入量と曳き縄モニタリング船調査について

(取りまとめ機関)

独立行政法人水産総合研究センター

(参画機関)

三重県水産研究所

和歌山県水産試験場

高知県水産試験場

宮崎県水産試験場

長崎県総合水産試験場

島根県水産技術センター

### 1. 資源評価による加入量推定値について

2014年2月に北太平洋まぐろ類国際科学委員会により、太平洋クロマグロの資源評価が行われました。その結果から、直近5年間(2008～2012年)の平均加入量は、歴史的な平均値よりも低いことがわかりました。また、2012年の加入量は、過去61年(1952～2012年)の中で下位8位と低い水準でした。

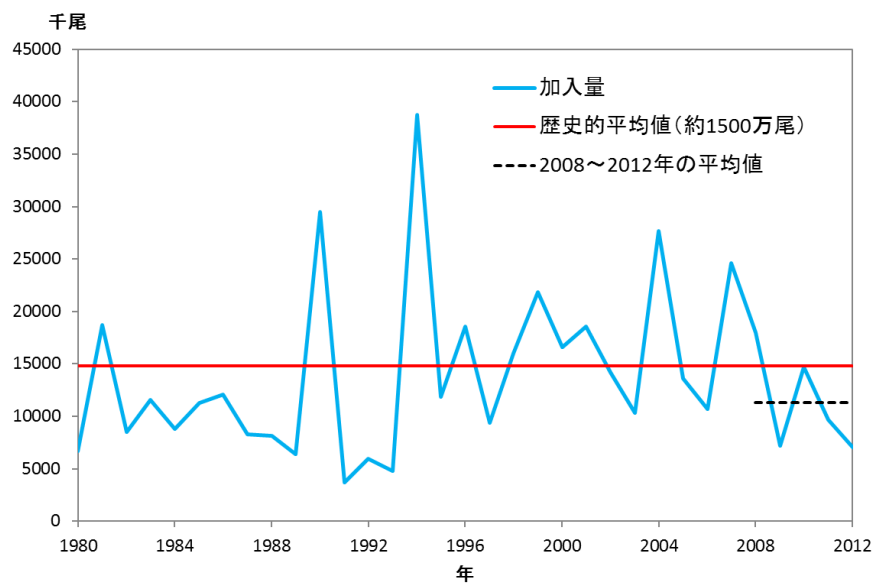


図 1 資源評価による 1980～2012 年の加入量推定値.

## 2. 産卵期と養殖種苗採捕について

太平洋クロマグロの産卵場調査の結果<sup>1</sup>によると、太平洋クロマグロの産卵は、4月下旬～7月上旬では八重山諸島～沖縄本島を中心とした南西諸島周辺で行われると推定されました。また、日本海では、7月に隠岐諸島～能登半島を中心とした海域で産卵が行われると推定されました。

曳き縄による養殖種苗採捕は、7月以降に西日本太平洋側の沿岸域や長崎県五島及び対馬で行われます。この漁期に採捕される魚は、南西諸島生まれであると考えられます。一方、10月以降には、島根県隠岐にて養殖種苗採捕が行われます。この漁期の主な採捕の対象は、日本海生まれの魚であると考えられます。

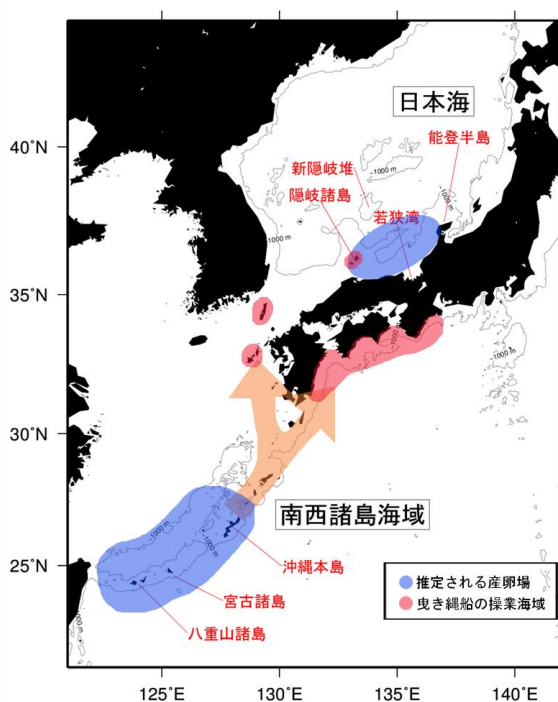


図2 太平洋クロマグロの産卵場と曳き縄による養殖種苗採捕の漁場。

## 3. 曳き縄モニタリング船調査

太平洋クロマグロ 0 才魚の加入量の早期把握を目的として、水産総合研究センター、高知県水産試験場及び長崎県総合水産試験場により、平成 23 年より高知県及び長崎県の計 24 隻の曳き縄漁船をモニタリング船として、本調査を開始しました。平成 25 年に島根県水産技術センター、平成 26 年より三重県水産研究所、和歌山県水産試験場及び宮崎県水産試験場が本調査に参画し、計 61 隻をモニタリング船とした調査に拡充しました。

本調査では、各モニタリング船に陸上と通信可能なデータロガーを設置し、位置情報、漁獲情報及び水温情報を記録します。記録したデータは、電子メールにより陸上にリアルタイムに送信さ

<sup>1</sup> <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/pdf/tenpfail140514.pdf>

れます。今回のクロマグロ加入量モニタリング速報は、平成 26 年 7 月 1 日～8 月 31 日までに太平洋南ブロックと九州西ブロックで操業したモニタリング船で収集した操業・漁獲データを元に作成されました。今回公表する加入量の速報は、今年の南西諸島生まれの加入量を示しています。

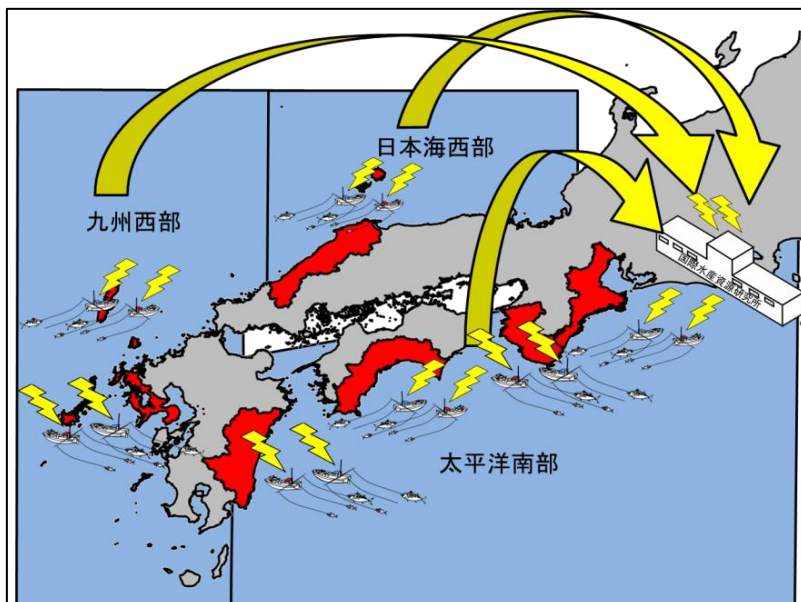


図 3 曳き縄モニタリング船調査におけるデータ収集の模式図。

#### 4. 曳き縄モニタリング船調査速報値について

モニタリング船から取得した操業・漁獲情報から、1 日 1 隻あたりの漁獲尾数(CPUE)を計算し、年ごとに平均を計算します。各年の平均の CPUE を加入量の速報値としています。

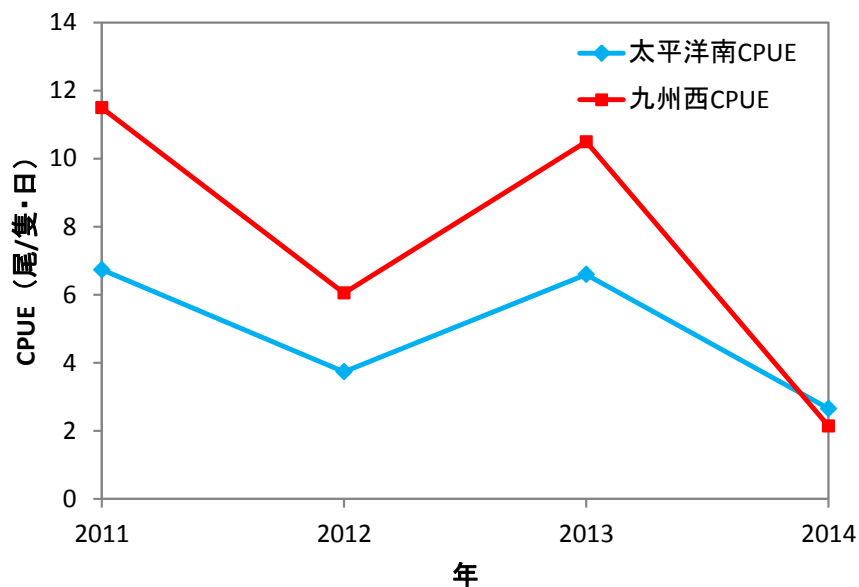


図 4 曳き縄モニタリング船による太平洋クロマグロ 0 才魚の CPUE(尾/隻・日)。